

ぎやらりー わ

NO.65

2014年1月



●花の村内散歩
チヤ (木村成男撮影)

編集・発行 NPO法人グループわ (堺 汎) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830



お年寄りを車椅子で名谷駅まで送るお買い物サポーター 11月6日 木村成男撮影

お買い物ものサポーター始動

グループ〈わ〉の新規事業、「お買い物ものサポーター」が、須磨区名谷の須磨パティオで11月6日からスタートしました。車いすやバギー利用者の買い物をお手伝いする制度で、2人ずつ週3回(月・水・金、11時~17時)活動するものです。神戸初の試みとあって、サポーター側も緊張気味。初日は〈足が痛いという高齢女性を車イスで名谷駅まで案内した〉〈82歳女性の相談相手になった〉の2件だけでしたが、PR不足もあって、まだまだ手さぐり状態。「どんな人が、どんなサービスを求めているのか」を的確につかみ、気軽に、快適に利用してもらえるように努めなければ、と思いました。11月と2月の試行期間を経て正式に活動予定です。問い合わせはグループ〈わ〉 芦田まで (TEL743-8101)。(広報・井口久美子)



ボランティアの
輪をひろげよう

東北支援活動をもう1年継続 2面

65号の内容	理事長インタビュー	3面	動物と人間の素敵な関係	4面・5面
	ボランティア最前線	6面	花実の森⑦	7面
	ボランティアの心	8面	部会れば一と	9・10面
	区会れば一と	11面・12面	カレッジだより	13面
	WAからのお知らせ	14面	トピックス・文化ホール優待券	16面

東北支援をもう1年継続

スポーツ・料理交流…第5次も仙台豊齢と協働で

東北支援活動を26年度も継続しよう――一年頭の理事会で堺理事長が「東北支援活動は4年目を迎える。この3年、私たちがやってきた活動は被災地でも高い評価をいただいております、今年も女川・石巻・名取・仙台などへ支援チームを派遣したい」と決意を述べ、グループ〈わ〉会員に協力を呼びかけました。昨夏、一緒に活動した仙台豊齢学園側も乗り気で、双方で準備を進めることになりました。村の福祉振興協会とはすでに第5次派遣で合意しており、26年度も3者協働の活動となりそうです。（東北プロジェクト・南形徹）

豊齢学園へは11月26日に南形徹・海野龍英理事が女川へ出張した際に訪問。学園の菅原課長・伊藤係長・豊齢ネットの湯村議長と懇談し、「第5次も一緒にやりましょう」との意思確認をしました。派遣時期は7月ごろ。訪問先は女川、名取のほか亘理も候補地としてあがっています。プログラムは第4次で好評だった手料理の交流・スポーツ大会・昔遊びなどをメインに双方で具体案を検討します。

昨年の第4次活動（手料理・七夕飾り・ディスコン・お手玉）について、学園側から「協働でやって良かった。参加した4グループのスタッフも感謝している」と発言があり、〈わ〉からも「反省点は多いが、地元のボランティアグループと一緒にできて有意義だった」と応じました。

女川社協に招かれ講演



女川町の社協福祉大会（11月27日）にグループ〈わ〉が招待され、南形徹副理事長がパネラーとして講演。第1～4次支援チームの活動ぶりを映像と共に紹介し、「女川でも高齢者のボランティアグループを増やそう」と呼びかけました。他に3人のパネラーが体験報告。

女川原発地区の木村尚区長は「津波に追われ原発の建物内に逃げ込んだ。暖房厳禁。陸路も海路もだめで、おにぎり1個を分け合うという生活が1週間ほど続いた」と涙ながらに訴え、地元で釣具店を開いている若い男性（川村辰徳さん）と、震災後に故郷



▲村の本館に仙台・東六郷小の児童を迎えて（12月11日）

にUターンしてきた若い女性（遠藤ひかりさん）からは、「女川を元気づけるイベント活動をしている」と現状報告がありました。地元以外の発表は〈わ〉だけで、これまで3度にわたって女川を訪問している実績が認められたものと思っています。

大会には海野龍英理事も参加、町長や社協関係者と交流を深めました。「1万人の人口が現在は6000人ほどに減っている。今後も女川復興に協力してほしい」と訴えられました。町内は、10mもの嵩上げ工事や、復興住宅建設、護岸堤防復旧が進んでおり、全域が工事現場の様相でした。女川中学校に建つ「いのちの石碑」（高さ2m、幅1m＝写真⑤）を見してきました。津波の恐ろしさを千年は忘れまいとの願いが込められています。建設費1千万円は在校生が駆け回って集めたという話を聞いてびっくり。子供たちの熱いエネルギーに心打たれました。

東六郷小の子供たち神戸へ

仙台市若林区にある東六郷小学校の児童6人が神戸市教委の招待で12月11～13日に神戸を訪れ、ルミナリエを見学したり住吉小など4校で交流会を楽しんだりしました。11日昼にはしあわせの村を訪れ、振興協会やグループ〈わ〉の関係者と再会を喜びあいました（東六郷小へはグループ〈わ〉も毎年支援チームを派遣しています）。

復興に役立つ活動を進める

堺理事長・年頭
インタビュー

東北支援や未来館の新規事業、お買い物サポーターにどう臨むのか。年頭にあって堺理事長に抱負を聞きました。＝写真は開校20周年式典で感謝状をもらう堺理事長

――第5次東北支援について

堺 東日本大震災の復興は、ようやく地に足がつき始めた感があります。私たちも、この3年間に築いた現地との繋がりを大切に必要の所へ、必要な支援を継続していこうと考えています。

――具体的には？

堺 東北プロジェクトチームで具体策を急ぎます。訪問先は仙台市・女川町・名取市などで、仙台豊齢学園とも一緒に行う予定です。神戸市社協、市民福祉振興協会、KSCとの連携も継続します。資金はサポート募金や助成金を申請する予定です。

――助成金がダメな場合もありますね。

堺 規模や内容を変更してもやりたいですね。無理をせず、やれる範囲でおこないます。そのためにも、皆さまに引き続き「サポート募金」をお願いしたい。募金は24年度67万714円、25年度56万771円（12月末）となっており、7、8人なら派遣できる金額です。



環境未来館の運営を刷新

――環境未来館の運営ここ数年、厳しそうですが。堺 エコちゃれゼミを受託したり、集客方法を考えたりして、1万人程度の入館者の5割アップをめざします。従来のイベントに加えて、企画展や親子での学習教室も検討し、部会・区会にも会議室（無料）の利用を呼びかけたい。

――エコちゃれゼミは結果まちですね

堺 そうです。昨年は惜しくも他の団体に決まりましたが、今年はプランを練って、プレゼンに臨みました。自然環境・省エネ・再生エネルギーなどを重点にしたプランで1月下旬には結果が出ます。「エコちゃれゼミ」は、作業量が多いため本部事業として取り組む必要があり、担当理事をおいて対応します。

お買いものサポーター

――試行中のお買いものサポーターは？

堺 名谷の「須磨パティオ」から提案があり、〈わ〉で引き受けることにしました。昨年11月からテスト的に実施していますが、改善を加えて地域の皆さまに喜んでいただける制度にしたいと思っています。昨年の漢字は「輪」でした。「わ」の心を大切にして、もっとボランティアの輪が広がる1年にしたいですね。（聞き手・井口久美子）

完走記念に東北カンパ

神戸マラソン（11月17日）に出場、6時間21分で完走した70歳の山下博邦さん（健福17）。「記念にもらったメダル・シャツ・タオルを売って東北支援に役立てたい」と忘年会の席で話したところ、仲間20人が感激。「それは記念にしまっておけ。代わりに皆でカンパする」とその場で一決、帽子を回したそうです。集まったお金は1万6272円。幹事の天野征一郎さんと山下さん、伊谷正弘さんの3人が12月11日、〈わ〉の事務所に届けてくれました。

山下さんはこれまでマラソンに出場申込みを2回していますが抽選で外れ、今回やっと念願かなって神戸路を走ることができたそうです。「大勢の仲間の応援で気持ちよく走れた。思いがけぬカンパ募金にも感謝している」と興奮気味でした。忘年会はびかぴか隊・花の会・グラウンドゴルフの

有志が12月4日に県民会館で開いたもので、メンバーは毎年、びかぴか隊として神戸マラソンの沿道整理のボランティアに参加しています。

Xマスの学用品ありがとう

10月に開催した震災シンポジウムの物産販売の純益で、女川と名取の小学校、児童センター、保育所など7か所に文具セットのXマスプレゼントを送ったところ、「ありがとうございます。大切に使います」と女川小、六郷児童館、増田保育所の子どもたちからお礼のメッセージが届きました（12月20日現在）。

●サポート募金のご報告

（10月12日～12月20日）震災シンポでのストラップ売り上げ（北村緑朗・国17）5,900円、東北物産展売り上げ6万350円、募金箱分1,781円、平野春幸（生18）1,600円、学園祭実行委員会5万円、健福17期有志1万6272円、北区会5千円＝計14万903円。

〈ご協力ありがとうございました〉

動物と人間の素敵な関係



リレートーク開催

動物とのおつき合いを考える一冊をテーマに10月25日、松本朱実氏ら講師6人によるリレートークがカレッジホールで開催されました。動物と人間との共通性、絆、ペットの飼い方…など、身近で興味あふれる話題に卒業生・在学生180人が熱心に聞き入っていました。ふれあいホールでは、10月21日から10日間、動物のパネル写真展が開かれました。この催しは、生環コースが「交流フェア」として毎年開いており、生物多様性・六甲山・水につづき4回目。今回はカレッジ開校20周年行事の一環でカレッジ主催、グループ〈わ〉など共催で行われました。

地球上に生命が誕生して以来、生命体は何度も絶滅の危機に瀕してきましたが、自然の調整力によって生き延びてきました。しかし、多くの種がすでに絶滅し、あるいは絶滅寸前にあり、その大きな原因として人間が自然治癒力である生物多様性を破壊していることにあります。私たち、このことを認識し他の生命、特に動物との共存について考えていくことが求められています。

講師6人が発表

●講師のテーマ・発表順は次の通りです。

- ①松本朱実：動物教材研究所pocket主宰 「動物たちの世界は不思議がいっぱい」
- ②佐々井浩志：北須磨動物病院院長 「動物と人の健康は一つ。そして、それはみんなの願い」
- ③湯木麻里：神戸市動物管理センター係長 「不幸な犬や猫たちを減らしたい」
- ④井田竜馬：行政書士、1級愛玩動物飼養管理士 「ペットをめぐる法律のお話し」
- ⑤横山真弓：兵庫県立大学准教授 「人と野生動物との共存を目指して」
- ⑥嶋谷吉彦：神戸市立王子動物園副園長 「動物園の役割から」

動物写真は在学生から公募

動物写真はカレッジ生から公募したもののほか、次の方々からの提供です。公募写真は約100枚が寄せられました。

*児玉小枝：フォトエッセイスト、動物福祉ネットワーク代表
「ラストレポート～この世に生を受けて」

*神戸市動物管理センター「幸せになった犬・猫」

【各講師の講演内容】

●松本朱実講師 ヒトも動物の一種であり、他の生き物や自然に支えられて生きてきました。その支えになっている生物多様性が種々の原因によって危機に陥っています。これを打開し、次世代に豊かな自



▲ロビーに展示されたユーモラスな動物写真

然資源を残すためには人間の働きかけが必要です。ペット・家畜は飼い主が必要なケアを怠らず、生涯、適正に飼育する責務があります。また、野生動物とは人と一定の距離を置き、持続可能な自然保護下で自力生活ができる環境を保持する必要があります。動物の生態を理解し、調和のとれた関係性を築くことは、私たちの健全で豊かな暮らしに繋がります。

●佐々井浩志講師

犬は1万年以上前から人との共同生活を営みよき仲間として過ごしてきました。動物医療とは「ペット」あるいは「コンパニオンアニマル」とも呼ばれる「伴侶動物」のための医療です。この動物との絆を最良に維持することが動物医療の根本となります。ペットは家族同然の存在となっていますし、他に産業動物（家畜）、展示動物、野生動物などと様々な形で関わっています。動物との接触が人間にとって精神的、肉体的によい影響を与えることはよく知られています。人間と動物が幸せな生活を過ごすためには、動物を正しく知り、恐れ、愛することが必要です。

動物と暮らす楽しさ

生活環境コースコーディネーター 北尾 進

「リレートーク」の開催につきまして〈グループわ〉の皆様には大変お世話になりありがとうございました。当日は気象警報が出るかどうかというお天気でしたが、180人余のご参加を得て無事開催することができました。

「交流フェア」は、3学年の合同授業であるとともに卒業生や市民の皆様にもご参加頂き、第1回の「生物多様性」以来、「六甲山」、「水」とこれまでのグループ学習によく取り上げられていたテーマを開催してまいりました。今回は「動物」。私たちは「伴侶動物」に癒され、介助犬や盲導犬に助けられるなど、動物とともに暮らしています。また、一方では野生動物

物とのトラブルも発生するなどの問題もあります。このような中、私たち人間との素敵な関係づくりを考える場にしたいと考え「動物」

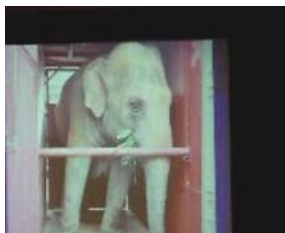


撮影：松本朱実

をテーマとしました。「トーク」では講師の皆さんからモノを言わない動物の生態や健康・福祉のことをよく考えて行動することの大切さや、動物の健康は人間の心と体の健康ともつながっていることを教えられました。来年も何かのテーマを考えて開催したいと思います。



撮影：松本朱実



●湯木 麻里講師 市民の安全・安心を守ること（管理）、命を大切にする社会を作ること（愛護）が動物愛護管理行政です。そのため、放棄された犬猫を引き取る業務を行っています。その数は平成24年度で1754頭で、その内約95%が殺処分されました。原因は飼い主の病気、入院、死亡であり、他には動物が高齢で病気になった、増えすぎたなどがあります。迷子になった犬猫が飼い主に戻る割合は神戸市では、犬で約40%、猫で1%に過ぎません。改善策としては身元の表示をつけることも必要です。また安易でミスマッチな飼育、高齢者による飼育についても考えるべきです。市民文化としての動物の保護施設も必要です。

●井田 竜馬講師 動物愛護法が改正され2013年9月1日から施行されました。この他に私たちの生活に関わっている動物関連の法律が20以上あり、飼い主の責務が規制され、飼われている、いないに拘わらず虐待すれば罰せられます。狂犬病予防法により予防注射が義務付けられており、外来生物法により特定外来生物の飼育には厳しい制約があります。ものを言わない存在だから、人間の動物に対する意識が重要になってきます。

●横山 真弓講師 野生動物は生態系のバランスの中で生存競争を生き抜いているが、人の生活の影響を受け、バランスが崩れ、特定の動物種だけが急激に増加しています。最も強く影響を受けているのがニホンジカで、過去に絶滅寸前まで減少したが、現在では保護政策などにより増加し、一番の農林被害を与えています。兵庫県では約3万頭の鹿を捕獲しているが、そのほとんどを廃棄しています。これを資

源と見直し、生活に利用することも必要であります。このように“個体数調整”の実践も必要だが、方法を考え、共存に導くこと（ワイルドライフマネジメント）が人間の責任です。

●鳴谷 吉彦講師 動物園とは、野生動物と出合える場所であり、野生動物とは何かを考えるきっかけになる場でもあり、福沢諭吉によって名付けられました。動物園には4つの役割があります。①種の保存：動物を絶滅させない。遺伝的多様性を確保し、国際的な繁殖計画を立案。②教育・環境教育：動物園は環境教育の入り口、動物科学資料館の運営・教育支援事業・動物ガイドなど。③調査・研究：野生動物は家畜と違い、よく研究されていないので、生態・繁殖・生理・行動などの研究。行動観察など、研究機関との共同研究などを行う。④レクリエーション：動物を見て楽しむことなどであります。

（まとめ・北村洋）

フィリピン台風救援募金

昨秋、フィリピンを襲った巨大台風は、死者・不明7千人を超す甚大な被害をもたらし、世界中から救援の手が差し伸べられています。KSCも事務局・グループ〈わ〉・ボランティアセンターの3者が共同で募金活動を実施しています。12月20日の第1次締め切り分では36,002円の募金が寄せられ、神戸市社会福祉協議会を通じて、現地へ届けました。

募金活動はカレッジロビーに募金箱を置くほか、区会・部会・サークルなどで呼びかけ、2月まで続きます。在学生・卒業生のご協力をお願いします。区会・部会・サークルの募金はグループ〈わ〉事務所（☎743-8101）へご持参ください。

”健康麻雀”で楽しい交流

ボランティア最前線



東灘区会

麻雀に熱中するお年寄りⅡ写真⑤
囲碁の相手をする富永さんⅡ写真⑥

「ロン！ハイ満貫」「えっ！しもたっ」パイを混ぜる音がにぎやかです。ここは、東灘区にある特別養護老人ホーム「ロングステージ御影」（定員70人）。9月9日の昼下がり、東灘区会がやっている珍しい「麻雀ボランティア」（長谷川博代表・生9）の活動ぶりを取材しました。

3階居室前のロビー奥のテーブルには、女性2人（99歳・80代）男性1人（99歳）が、スタンバイ。「こんな超高齢者が」とまずびっくりです。スタッフは、長谷川さんと、入谷清弘（食5）、白岩信義（国7）、原田静雄（国7）さんの4人。きょうの参加は3人なので、スタッフの1人がメンバーに入ります。

「さあ、始めましょうか」。パイを混ぜたり、並べたりはスタッフが手伝いますが、パイを並べ終えたら3人とも自分で手の内を考え、役を作ってゲームを進めます。相手の表情を読んだり、捨てパイを観察したり…。パイの揃い具合を見計らってチャンスとみたらリーチをかけます。ゲームに熱中するとぼやぼやしている暇はありません。

「ロンだよ」。傍らのスタッフの声に、上がったことに気づいた99歳のお爺ちゃん。思わず「おーっ！」との歓声が…。「おめでとう」と声をかけると、満面の笑顔が返ってきました。だれかが、一人勝ちすることもなく、おしゃべりをしながら和気あいの2時間。点数計算はスタッフがしますが、各自で

パイを片付けてゲームは終了。「入所者の感想はいかがですか」と職員に聞くと、「長年続けて下さり、助かっています。みんな、健康にいいと、楽しみに待っているのですよ」。

区社協の依頼により麻雀ボランティアを始めたのは2010年5月から。99歳のお二人はその時からのメンバーです。「当初は、スタッフの手を借りて進んでいたゲームも、半年位すると自分たちでやれるようになり、表情に喜怒哀楽が出てきた。生きがいになっているようです」と長谷川さんも嬉しそうです。

囲碁・将棋・畑づくりも

2階の居室では、富永征児（園7）さんが、94歳の男性と囲碁で対戦中。将棋の相手もしています。富永さんはそれに、園芸0Bの強みを生かして、屋上菜園で野菜づくりもやっています。「いちご、スイカ、南瓜…今夏は特別の猛暑で水やりに追われたが、皆さんの喜ぶ顔を励みに頑張っている」といいます。東灘区会は会員90人程ですが、麻雀のほか、喫茶支援、書道、歌の友愛訪問、学習支援など幅広いボランティア活動をしています。

取材を終えて 麻雀といえば、賭け事というイメージを持っていましたが、4人でおしゃべりしながら、頭も手先も使うゲームなので、高齢者の健康維持にぴったり。他の施設や老人クラブでもはっていると聞いて、納得しました。

（取材：井口久美子・写真：木村成男）



育ちゆく 花実の森

①



環境体験学習はじまる

花実の森プロジェクトが目標においている活動に「里山整備」と「環境学習の受け入れ」があります。かねてから進めてきた「環境学習の森づくり」に、この秋、北区大池小学校3年生の児童が、自然環境体験学習の授業としてやってきました。授業にはいくつかのプログラムを用意していますが、今回は「里山の植物観察」と「カブトムシの棲み家づくり」を体験してもらうこととし、まず普段見過ごしてしまうさまざまな植物の姿や、いろいろな特徴を持つ葉っぱの観察をじっくりし採収した後は、「カブトムシの棲み家づくり」の体験。この夏に自然産卵し孵化した幼虫が棲む場所から、少し離れたところに準備した「大池小学校カブトムシ分校」への引っ越し作業。子どもたちが持つ手提げ袋に、それぞれ数匹ずつの幼虫を土

と一緒に入れてやり運搬。ここの分校で冬を越し、来春から初夏にさなぎ・成虫へと育つ姿を引き続き観察に来てもらい、命の営みをしっかり学んでもらう体験学習です。



カブトムシ分校へ幼虫引っ越し

「田植えから稲刈りまで」の里山版、『カブトムシの棲み家作りから幼虫・成虫観察まで』は始まったばかり。今、ここ花実の森ではおそらく数百匹の幼虫が冬眠し、子どもたちを待っています。さらに多くの市内小学校のカブトムシ分校が設立し、充実した自然環境体験学習場となるよう活動を続けます。（花実の森プロジェクト・菅田忠志）

和布のリメイク講習 好評

「たんすに眠っている着物を再利用しましょう」という、第1回「和布リメイク講習会」が11月10日、環境未来館で開かれ、午前・午後合わせてお母さんたち39人が受講しました。先生役は、「チームたんすの肥やし」（藤本明美代表・生17）のメンバー8人。好みの着物地を使ったエコバック作りや、展示されたリメイク服から、作りたいものを選び、その



型紙作りを行う参加者

型紙をとる作業です。「お洒落なバックができて嬉しい」「型紙は、自分では取れないのでとても助かった」「また開催して欲しい」。特に型紙作りは「大変よかった」と大好評でした。「たんすに眠っている着物がリメイクできる」とのPRが効いたようです。布草履作りは「あじさいグループ」（生環16有志）が頑張ってくれ、お子さん連れのお母さんには、

「カーネーション」（一森美代子代表・福12）が、子供たちの世話係を務めてくれました。

小さい子どもをみてもらって心置きなく作業ができるお母さん。小学生の子どもと一緒にミシンを踏みながら「家では何でも急がせてしまうから、こんな催しはありがたい」と言われるお母さん。布草履作りに挑戦しているお父さんとお兄ちゃんも。皆さん、履き心地の良さに大満足でした。

別室では、「古着から燃料を作るプロジェクト」のビデオ映像が流され、出し手・受け手双方にメリットのある古着のリユース活動が、より深く理解できました。この催しに、70人もの応募がありましたが、準備の都合や初回と言うこともあって、今回は40人に制限せざるをえず、次回開催が待たれます。

（広報委員・徳原尚世）

●廃部のお知らせ 神戸ホテルの会（堤 健代表・生9）は、メンバーの高齢化のため11月9日付けで廃部となりました。

『ぎやらりーわ』原稿募集

区会やサークルの活動レポート・ボランティア日記・写真・ご意見などをお寄せ下さい。500～900字程度。HPにも掲載します。広報誌を読んでの感想、企画も歓迎します。

ボランティアの心

にっこり笑顔の宅配便

飯井冴子（一般：灘区会）

私を、じいっと見て、「あんだ、太っとうねエ」と入所者のAさん。「わあーAさんが、きょうも云ってくれた!!（笑）」特養ホームのフロアで、私はスタッフの方と一緒に喜んでしまいます。

私は今、特養ホームの傾聴ボランティアに行っていますが、入所者一人ひとりの歴史と向き合うことができ、いつも溢れんばかりの想いのうちに帰途につきます。

ホームには、60歳代から100歳を超えられた方々が、それぞれの認知度、障害度のなかで過ごしていらっしゃいます。

入所者のうち、おしゃべりのできる方は20%程度です。

毎回行ってお話をして、いつも「こんにちは、はじめまして、飯井と申します」から始めなけれ



ばならない方。「こんにちは」というと、パッと瞳を輝かせて、手を握って離されない方。いつも昔の時代（武士登場）に自分を置いていらっしゃる方。歌が好きで、童謡、唱歌など一緒に大きな声で歌われる方…。

「小さい時は苦労したー」と話される方が多いけれど、私も同じ年代であればこそ「そうでしたよねえ」とうなずいてお話を続けることができるのではないかと思います。こういうときは高齢者ならではの出番!!と勝手に満足しています。

ホームを訪問して、いちばん心掛けていることは、入所者への接し方です。最も大切なことは、相手の人格を尊重し、ちゃんとお名前で「誰々さん、どうですか」とていねいに話しかけることだと思います。

さて、今まででいちばん嬉しかったことは——入所者の方に、「あんだ笑顔良しやなあ、あんだの笑顔、好きやでー」と云われたとき。ほんと、ボランティア冥利につきます。

お茶やお花にチャレンジ

初霜が降りた11月29日、「伝統文化体験教室」が北区花山小学校で開催され、6年生77人がお茶・お花・着物の着付け・銭太鼓・大正琴の5コースに分かれチャレンジしました。

9時半、児童とシルバースタッフが対面してさっそく開始。2時間足らずの授業でしたが、子供たちは目を輝かせて取り組み、成果?を皆の前で披露しました。

お茶を学んだ子供たちはお点前の挨拶の仕方・立ち居振る舞いがすっかり板に



つき、お花（写真⑤）の作品は個性豊かで、すっきりまとまっており、スタッフもびっくり。着物を着た途端に動作が一変、しゃなりしゃなりと職員室まで歩いていく児童もいました。法被にたすき姿の銭

太鼓、初めて触れる大正琴（写真⑥）。共に短い時間にもかかわらず見事に演奏してくれました。

どのコースもすばらしい出来栄で、男女がそれほど偏ることなく、共に楽しむ姿が素敵でした。

校長先生からも「日本の心をこのような活動を通じて教えていただき、感謝します」とお礼の言葉がありました。花山小では毎年、伝統文化教室を開いており、こうした経験が子ども達の心のゆとりとなり、日本の文化を理解する一助になってくれれば、と思った半日でした。各コースをお手伝いくださったスタッフの皆さま、お疲れさまでした。

（広報委員・徳原尚代）

この事業は、独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業によるものです。

部会レポート

里芋料理に舌つつみ

「卒業生を招いて料理を楽しもう」という催しが10月24日、カレッジ調理室で開かれ、遊志の会（食文16期生）の14人がゲストとして参加。19期生と一緒に「里芋とイカの炊き合わせ」と「里芋と揚げ茄子のみぞれ煮」に腕を振りました。久しぶりに白井操先生にお会いし、在学当時を思い出して大変感激。



「レシピを良く見て！」と白井先生に注意されながら、「この味付けは？」「この切り方は？」など、おしゃべりを楽しんで一品を仕上げました。

学習室に移り試食会。「里芋の天ぷらがうまかった」など和やかに話が弾み、このあと、料理教室、豆腐づくりなど「遊志の会」の活動を紹介しました。この催しは、16期まで「大切な人を招いて」というタイトルでしたが、いったん途切れ、今回復活したものです。16期、19期ともに、「今後とも協力して活動していきたい」と話していました。

＝写真は末盛十二(食16)撮影 (遊志の会 加藤武久)

広陵小で里山学習

和楽会が管理する「かがやきの森東地区」（北区）で10月21日、近くの広陵小3年生4クラス128人の里山学習が実施されました。自分を取り巻く自然現象・環境に興味と関心を持ち、どうすればいつまでも健全な状態を保つことができるかを考え、



のこぎりで枝を切る子どもたち

行動することを目的としています。朝9時、各クラスに5～6人の和楽会スタッフが付き添い学習スター

ト。内容は①葉擦れ・鳥・虫などいろんな声を聞く。②堆肥の中で生きる虫・微生物を観察。③杉の切り株を使って、樹木の年輪を調べる。④里山林の整備作業や樹木の伐採体験などです。

午後は学校へ戻り、教室で垣内講師から「植物の子孫繁栄戦略」の話を行いました。紙で種子の模型を作り、風によってどう飛ぶか、生息範囲がどこまで広がるか、の実験をしました。

(広報・北村洋)

つい先日まで「夏日だ 残暑だ 秋が恋しい！」

♪♪小さい秋を求めて♪♪

と、猛暑の居座りにうんざりしていた日本列島に、土の帳尻合わせをするかのごとく、突然やってきた冬の様相。山の木々たちもちょっと慌てた衣替え。ひょっとすると今年の秋は見逃すくらい“小さい秋”になるかも、と11月20日に行われた秋の森林浴。前日は「11月としては初めて六甲にも初雪」と報じていたメディアに、秋はすでに名残かとの思いを抱きつつ山頂へ。雪こそ残っていなかったが（実際には2か所ほど薄く残る雪あり）やはり今年“小さい小さい秋”しかやってこないらしい。

夏の台風の影響で不通となっている六甲ケーブルに変わる代替バスで山上駅へ。ススキが揺れる六甲山ゴルフ場を抜け、六甲山ホテル裏から北に下る“シュラインロード”へ入る。

このコースは六甲にいくつかある“カタカナ文字コース”のひとつで、昔からの行者たちが通ったと伝えられている静かな道。コースの両脇にぼつぼつと佇む30体を超える石造の野仏に、いにしへの行者の姿を重ねて歩く。

午後の陽射しに赤く染まる“六甲の紅葉”に、ひとときの幸せを楽しい仲間たちと共有し、こころの洗濯をしながら、ひとつぼつんと残った柿の実を横目に有馬口に降りつく。お疲れさんでした。

(菅田忠志・生11)



あ～ら不思議！マジックの祭典

第11回マジックの祭典が11月2日午後、たんぼぼの家ホールで開かれ卒業生・在校生・家族ら150人が不思議ワールドを楽しみました。森田明郎大会委員長の挨拶のあと、3期から20期までの32組37人が華やかな衣装姿で自慢のネタを披露。(写真)



ハンカチやひも、カード、花束、パラソルを使った伝統的なもの、お笑いと手品をからませたものなど、次々飛び出す妙技に客席からは拍手が絶えず、大いに沸いた3時間でした。「年々、動きのあるマジックが増え、華やかになっていますね」と指導者の空閑義郎さんは満足そうでした。この祭典はK S Cマジッククラブ(卒業生)とマジック同好会(在校生)が、腕を磨き練習の成果を発表する場として毎年、開催しているものです。

(広報：南形徹)

コーロ20周年を歌う

混声合唱団コーロK S Cの第8回定期演奏会(創立20周年記念演奏会)が11月4日、神戸文化ホールで開催され、大ホールを埋めた1700人の聴衆を魅了しました。

皆木信治先生の指揮で、ハイドン「ミサ・プレヴィスN07」「行け、我が想いよ 金色の翼に乗って」「流浪の民」「花は咲く」など、宗教曲や愛唱歌を170人の団員が高らかに歌いあげました。

原語で歌うことの難しさから敬遠されがちな宗教曲も練習の成果が十二分に発揮され、「ハレルヤ」の美しいハーモニーが客席を包みこみました。

団員の皆さんの歌に込める想いが唱歌メドレー「ふるさとの四季」には最高となり、客席からも「例年よりすばらしかった。歌の世界に引き込まれた」との感想が聞かれました。

今回は、創立20周年を祝って新調した団旗



が披露され、寄藤忠彦団長は「団旗中央の白い羽はさらなる飛躍を表しています。元気なシルバー合唱団として、ボランティア活動を続けたい」と話していました。(広報委員・水上桂子)

コーロが20周年パーティー

コーロK S Cは、結成20周年の祝賀パーティーを12月8日、相楽園会館で開催。1～20期生150人が20年をつづる映像を見ながら、歌と共に歩んできたコーロを振り返りました。荻原允子さん(音1)は、「脳梗塞を患ったけど、歌うこと、ボランティアができることが生き甲斐になっている」と。最後に、全員で「あの素晴らしい愛をもう一度」を歌って散会しました。(広報・井口久美子)

戦争の語り部活動をビデオに

糀台小(西区)で12月20日、学習支援委員会語り部チームによる「戦争と平和学習」が行われ、渡辺寛治さんら5人とビデオ記録係2人がスタッフとして参加しました。対象は6年生児童70人。「神戸大空襲」の体験を中心に、B29爆撃機による焼夷弾攻撃・焦熱地獄からの脱出・田舎への疎開の様子などが詳細に語られました。子供たちは真剣に聞き入り、平和な時代に生きる大切さを実感したようでした。ビデオ撮影は、「戦争の語り部活動を残そう」と〈わ〉が今回から始めたものです。

(広報・北村洋)

ジョイラックに講演会開催

グループ〈わ〉は、1月15日のジョイラックデーに、学習室1、2で下記の講演会を開催します。

①みんなで支える介護保険(10時30分～12時)

講師は、神戸市介護保険事業計画担当係長・武藤剛氏と在宅支援係長・奥谷由貴子氏。介護保険申請のポイントや、介護度に応じたサービスなど、介護保険の仕組みについて学びます。

②第2回福祉ボランティア大会(13時～16時20分)

福祉部会の8グループ(滝谷ホーム・明生園もみじ会・さおり、たまも・信愛ホーム介助・一寸奉仕・クレヨン・あんだんて・エンジェル支援の会)を映像で紹介したあと、明生園もみじ会・一寸奉仕・クレヨン・あんだんてが、歌唱や大道芸、手品や小咄、朗読を披露、会員の交流を深めます。会場前廊下には、活動風景の写真なども展示します。入場無料。問い合わせは、加藤勇治・福祉部長(078-743-8101)まで。

区会ればーと

須磨区会 ウォークラリー成功



秋晴れの10月27日、須磨区会は奥須磨公園で初のウォークラリー大会を開催。地元や近隣の区会から合わせて22チーム・55人の参加があり、紅葉の森で楽しい1日を過ごしました。

9時35分、スタッフの合図で最初のチームがスタート。1～2分の間隔で次々に森へ姿を消します。コースは約3.5km。(80分で完走できるように設定しましたが、参加者には伏せています)。コマ図と呼ぶスポット的な地図を頼りに、9つのチェックポイントをつないで一周し、スタート地点に戻るのです。

ポイント毎にスタンプ台や、トンボの種類を問う設問があり、メンバーが協力して頭をひねらなければなりません。

10時50分、《さくら＝水島・坪田組》がトップでゴールしたのに続き、各チームが続々とUターン。優勝は時間・ポイント得点とも100点をマークした《マジック＝戸田・政岡・古勝組》が獲得。そのほか飛び賞など7チームに賞品が贈られました。

ゴールした全員にアンケートをお願いしたところ、「おもしろかった」「楽しかった」「また参加したい」との回答が圧倒的でした。7月からコースを何回も試走、プランには自信を持っていたものの参加者が集まらず、不安に駆られた時期がありました。それだけにスタッフ8人の喜びは大きく、「地元の奥須磨公園に親しんでもらえた。次回もやろう」と意欲満々でした。＝写真は、奥須磨公園でスタートを待つ参加者 (広報・南形徹)

東灘区会 ふれあいフェスタへ出店

東灘ふれあいフェスタ(11月3日)に、3つの会(区会・ボランティアガイドの会・梅一つ火会)が共同で出店しました。テントの中にダンジリ・美術館・名所・旧跡・水害・震災などの写真を掲示。美術館・酒蔵のパンフレットを積み上げ、「東灘検定試験・非公認」も実施したところ、雨が激しい1日でしたが50人が受験してくれました。すべての解答欄にすいすい記入した方はありませんでしたが、区会スタッフの助言で、「100点満点!!」。大満足の様子でした。区の花「梅」は90%の方が正解で、「梅一つ火会」の10年の啓蒙活動が実ったものと思います。受験はしないが、会場を覗かれ方も多かったので、「これから区内の名所を見学していただける」と期待しています。会場清掃は12人のカレッジ在生(地域連絡会)にお願いし、ゴミ一つ無い会場にしてもらいました。今後とも、現役とOBの協力態勢を維持していきます。＝写真は検定試験の様子 (長谷川博・生9)



長田区会 バーベキューで親睦会

11月11日、長田区会(藤田忠之区会長:会員53人)は、バードウォッチングとバーベキューの親睦会を、しあわせの村一帯で開催しました。参加者10人は、名ガイド・堀池邦康さん(生17)の案内で本館前を出発。鎮守の森-日本庭園-野外センター-堂坊池を巡る1kmのコースを1時間半ほどかけて、双眼鏡をのぞきながらのんびりと散策。カワラヒラやクサシギなど12種類の鳥に出会いましたが、カワセミの姿は見られずじまいでした。



11時、バーベキューサイトに到着。準備を始めた途端にわか雨! 大慌てでテントを張り終えたら、なんと青空が…。炭を起し、さあ〜、待ちに待った乾杯です。お酒と美味しい肉に舌鼓を打ちながら、会話が弾みます。降ったり、やんだりのお天気でしたが、「楽しかった、来年もやりましょう」「日頃おしゃべりしない人とも話げできた」と好評でした。(井口久美子・福16)

北区会 淡路へバスツアー

北区会は秋晴れの11月27日、淡路島へ親睦バスツアーに出かけた。参加者は27人。コースは県立淡路景観園芸学校―あわじ花さじき―北淡震災記念公園―薫寿堂（線香工場）―タコせんべいの里―千年一酒蔵。朝9時に谷上駅前に集合、しあわせの村に寄って一路淡路島へ。園芸学校では〈わ〉の西山理事が出迎えてくれ、びっくり。西山さんはここでボランティアをやっており、広大な敷地にあるセラピーガーデンやイチゴノキ、ハンカチ



ノキなど珍しい樹木を案内してくれた。（写真）

その後、大阪湾・神戸市が一望できる隣のあわじ花さじきに移動、すばらしい景色を堪能した。売店では名産のたまねぎを買う参加者が多かった。

昼食は北淡震災記念公園のレストランで摂った。大震災の断層を保存する記念館を見学し、震災の恐ろしさを思い出す参加者もいた。線香工場、たこせんべいの里を見学し、淡路の銘酒・千年一酒蔵へ。試飲を楽しみお好みの銘酒を買ってツアーを締めくくった。参加者は「楽しかった。いい見学旅行だった」と満足そうだった。＝木村成男撮影（土井昭政・国10）

垂水区会 わが街垂水を歩く

今年2回目となる歴史探訪会が、12月13日に行われた。この朝、垂水駅に23人が集合。日向遺跡―洞養寺―青木寺―遊女塚宝篋印塔―五色塚古墳―垂水漁港―海神社のコースを2時間ほどかけて散策しました。垂水観光推進協議会にボランティアガイドをお願いしましたが、カレッジの卒業生2人も含まれていました。「五色塚は初めてだ」「こんなに駅に近いところに遺跡があるなんて…」という声もあり、長年住んでいてもまだ知らないところがたくさんあります。「次回もやりましょう」と散会しました。（板野武一・生16）

私のボランティア日記

遊志の会 波多野武郎（食16）

遊びの会ではありません。れっきとした食文16期生のボランティアグループです。「なにを行うにも常に遊び心をもって、全員で楽しむ」をモットーに活動しています。主な活動は、「神出自然教育園」で子どもたちと一緒に豆腐作りをしたり、長田区にある「ふたば人材支援センター」で、季節毎の料理教室を開催したりしています。毎回、活動には20人前後の会員が参加、この原動力となっているのが、遊志の会のクラブ活動（山歩きの会・麻雀・旅行・歌謡など）です。遊びを通じて、会員相互の親密な交流が芽生え、気心が通じ合う…それが、協働でボランティアを行う喜び、楽しみに繋がっているように思います。

どんぐり工作大盛況

11月24日、地域人材支援センター（長田区）で、「まちの文化祭」が行われ、グループ〈わ〉は、「松ぼっくりツリー」と「どんぐりブローチ」作りのブースを開催しました。

10時の開場と同時に、大勢の親子連れらがつめかけ、スタッフ（本部）は大わらわ。特にXマスツリーは子どもたちに大人気で、準備した25個の松ぼっくりは、午前中になくなってしまいました。



「素敵なツリーができて嬉しい」と喜ぶ子や「可愛いでしょう」とテントウムシのブローチを見せる女の子。出来上がった作品に子どもたちも大満足の様子です。付き添いのお母さんからは、「来年もぜひ開催して欲しい」との声が聞かれ、100人を超える参加者に、スタッフは嬉しい悲鳴をあげていました。＝写真はまつぼっくりツリーを作る子どもたち 北村洋撮影（広報・井口久美子）

カレッジだより

第18期グループ学習の発表会

シルバーカレッジの25年度グループ学習発表会は、12月12日から健康福祉コースを皮切りに2月27日の園芸専攻まで、約2か月にわたって行われます。合同発表会は2月27日（木）です。各コース・専攻の発表グループ名とテーマおよび発表日は次の通りです。

◆ 健康福祉コース（12月12日）

【酒仙同志】「日本人と酒・酒の効用と弊害：焼酎のルーツを訪ねて」

【ACTIVE5】「神戸マラソンをトリガーに再び学んで他のためにアクティブに健康的な生活環境を培おう」

【GET】「ADL（日常生活活動）を維持してPPK（ピンピンキリキラ）の達成」



【わらい届け隊】「笑涯学習（笑って健康長寿）」

【グループ”アンニョン”】「元気の源を〈韓方〉に探る～〈韓方〉の実体験と大邱市シニクラブの活動～」

【夢見るロボット君】「少子・高齢社会を支えるロボット君」

【発酵燦燦】「発酵食品と健康」

【ハッピーエイジング】「好齢者として生きる！～自分らしく長生きを楽しみ、みんなに好まれる高齢者を目指す」

◆ 国際交流・協力コース（12月9日）

【四天王】「来日外国人に日本語を」

【OYATO1】「お雇い外国人」

【神戸発新世界一周隊】「神戸から自分らしく世界に向けて」

【フォルモサ】「台湾の親日性を探る」

【メコンの旅人】「ラオスの織物紀行」

【ハイカラ神戸】「甦れ国際都市神戸ブランド」・【神戸・パン物語】「神戸は、なぜパン文化の先進地となったのか？」

【Ocean's5】「環太平洋経済連携協定（TPP）と食品の安全」

【シン・チャオ・ヴェトナム】「THE PARTNERS」

【居留地探訪G7】「居留地に学ぶ～明日の神戸街づくり」

【もっと、もっと KOBEに！】「神戸に本社を置く外資系企業－神戸の再発見と国際交流」

◆ 生活環境コース（1月31日）

【再生エネ研】「再生エネルギーの実践」

【水辺の葦】「水・この不思議な力」

【湯・エンジョイクラブ】「"SPA"と癒しパワー」

【温泉を楽しむ会】「兵庫県の温泉の魅力」

【盲導犬】「盲導犬をもっと知ろう」

【瑠璃の会】「有機野菜栽培」

【八十八の会】「私もできます、おいしい米作り」

【チーム馬LOVE】「地元愛が支える 素通りさせない駅育て」

【チーム・こうべ風土記】「KSC学生が語る『新こうべ風土記』わが町神戸の遷り変わりを考える」

【3匹の素老人】「老人力あ・ら・か・る・と」

【神戸の里海】「豊かな魅力ある神戸の海をとりもどしたい」

◆ 総合芸術コース

● 美術・工芸専攻（2月14日）

【釉遊会】「ベンガラの性質と活用に関する学習」

【陶芸花壇】「カレッジ玄関前の花壇の整備」

【赤絵探遊会】「赤絵ルーツ探索と技法の探求」

【陶遊】「装飾技法の学習」

【グループ・レモン】「神戸愛生園への一輪挿しの寄贈」

【気楽陶】「楽焼陶芸を楽しむ」

● 音楽文化専攻（2月26日）

【合唱】「唱歌メドレー合唱でつづる日本の四季」

【パーカッション】「打楽器アンサンブル”椿姫～アイター～TOP OF THE WORLD”」

【和太鼓】「華の舞」

● 園芸専攻（2月7日）

【1班-1】「魚粉という肥料成分がスイカの果実に及ぼす影響についての研究」

【1班-2】「トマトを1本立てと2本立てに分け、更にそれぞれの半分に魚粉を入れその影響の比較」

【2班-1】「トマト（桃太郎）の連作障害を抑える栽培を考える」

【2班-2】「サツマイモ（鳴門金時）の植え付け方法、肥料のある・なしで芋の形・大きさ・数の 違いの追求」

【3班-1】「ジャガイモの連作障害対策の有効性を検証」

【3班-2】「中玉トマトにて、連続摘芯栽培と1本支柱で同じ条件で栽培し、収穫量等を比較検証」

● 食文化専攻（12月4日）

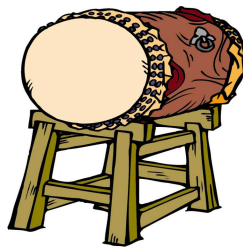
【1班】「健康長寿に役立つ”きのこ”の多様性と創造力をつたえる」

【2班】「発酵食品を使った料理－納豆、ヨーグルトを中心として－」

【3班】「おもてなし”雅弁当”」

【4班】「駅弁物語」

（まとめ・北村洋）



ボランティアスタッフ募集

●一ノ谷プラザ

一ノ谷プラザ（須磨区） 執務は、木・土が8時45分～21時15分、その他の日は8時45分～17時30分で、つき1～2回程度。交通費と謝金が支払われます。ご希望の方は、〈わ〉本部（741-8101）までご相談下さい。

●電話相談

こども家庭センター（虐待相談）と教育委員会（いじめ・体罰相談）の2か所。執務は、男性が夜間（17時～翌日9時、女性は休日（土・日・祝）の8時45～17時で月1回～2回程度。

▽上記ともに、交通費と謝金が支払われます。ご希望の方は、〈わ〉本部（741-8101）木田までご相談ください。

WAからのお知らせ



〈わ〉に入会しませんか

3年生の皆さん、〈わ〉に入ってボランティア活動をしませんか。1月21日の説明会に続き、ふれあいホールで入会勧誘を行っています。勧誘期間は、1月23日～31日と2月7日。年会費は1人1,500円です。今年も東北支援活動を継続するほか、各サークルと協力して各種のイベント、学習支援活動などを幅広く展開します。卒業後の人生をより豊にするために、〈わ〉の仲間に加わって下さい。問い合わせは〈わ〉事務局（743-8101）まで。

訃報



グループ〈わ〉役職員交流会会長の郷肥三（こう・ともぞう）さん（福祉9期）が11月2日、上郡町の国道で車を運転中に大型車と衝突、死去されました。享年76。葬儀は4日、姉の姫野五百子さん宅（尾道市因島）で営まれました。

「ボランティアは楽しい」が郷さんの口ぐせで、2007年から理事長を2期務め、一ノ谷プラザの運営事業などグループ〈わ〉の発展に寄与されたほか、賀川豊彦記念館の語り部、電話相談員など、さまざまな活動を続けてこられました。ご冥福をお祈りします。役職員交流会会長は当分の間、幹事の上田市夫氏（生10）が代行します。

●**学園祭から8万円寄付** 学園祭実行委員会からこのほど、「5万円は東北支援活動費として、3万円はその他の活動費に役立てて欲しい」と、計8万円の寄付がありました。清水・水越学園祭総合実行委員長には、堺理事長から「大切にに使わせていただきます」と謝意が伝えられました。

●**ボラセンから5万円** 入学式・学園祭で、グループ〈わ〉と共同で実施した東北支援募金の一部、5万2千円が〈わ〉に寄託されました。賛同して下さいましたKSCの皆さまにお礼申し上げます。

●**滝谷ホームの見守り** 軽度知的障害者グループホーム・滝谷ホーム（長田区滝谷町）で、夜間、入寮者のお手伝いを募集中。月・水・金は20時～9時。土は17時～9時。交代制で1人月1～2回担当。1回6,800円～8,000円の手当があります。問い合わせは堀内昭（食6）電話592-9297まで。

●66号（4月号）の発行は2014年4月中旬です。

戦争体験を語り継ぐ道

つばき

「神戸大空襲」をテーマにした学習支援委員会語り部チームによる出前授業「戦争と平和学習」は2学期がピーク。メンバー6人が手分けして市内の小学校を回って戦争の恐ろしさを伝えていく。授業は「空襲の最中、焼夷弾攻撃で火の海となった神戸の街を必死で逃げ回った」体験談と、「空襲を避けて親元を遠く離れた田舎で過ごす集団疎開」の話を中心に、第2次世界大戦の実態を映像とともに解説している。

児童は興味津々の様子で聞いてくれ、「防空壕は安全なの？」「焼夷弾の威力は？」「疎開先では何を食べていたの？」といった質問が次々に飛び出す。スタッフも思わず力が入り、児童と真剣に向き合うひと時だ。

戦争の悲惨さを少しでもわかってくれる児童が増えることは嬉しいが、世の中、高齢化が進んで児童の祖父母ですら戦争を知らない世代が大半を占めるようになった。風化してゆく大戦の記憶や体験、史料を、次代に語り継ぐ妙案はないものだろうか。（学習支援委員、加藤勇治）

編集後記



★あけましておめでとうございます。70歳の17期生がマラソン完走、記念に東北支援カンパ。女川の中学生たちが奔走、1千万円集めて震災の碑を建立…聞いてびっくり、じぇじぇじぇ！ 65号は心温まる話題2つを取材しました。東北の子供たちから、かわいいXマスカードも届きました。学用品プレゼントの輪が広がっています。（南形徹）

★「部会は知ってるけど、区会って何？」との声が聞かれる中、5区会から活動報告が届き、充実した「れぽーと」になりました。ラリー・親睦会・バス旅行・東灘検定。「区会って、こんなことやってるんだ。楽しそう！」と思っていただく良い機会になったのではないのでしょうか。（井口久美子）

★戦争体験をした語り部たちが小学校6年の社会科「戦争と平和学習」の時間に体験談を話し聞かせる場に参加しました。焼夷弾爆撃、学童疎開などの話を聞いた子どもたちは、現在の平和の尊さが実感できたようです。彼らの未来が平和であることを切に願いました。（北村洋）

〈わ〉のメルアド＝わ本部 group_wa@wa-net.jp ぎやらりーわ wa_gallery@wa-net.jp

グループ〈わ〉 イベント予定

開催日時・場所	テーマ・内容と協力グループ	連絡先
1月15日(水) 10時30分～12時 KSC 学習室1・2	講演会 (実用講座) みんなで支える「介護保険」 介護保険申請、介護保険の仕組みについて学びます	743-8101 グループ わ
1月15日(水) 13時～16時20分 KSC 学習室1. 2	第2回 福祉ボランティア大会 福祉部会 8 グループの紹介と活動発表会	743-8101 グループ わ
3月30日(水) 10時～15時30分 KSC カレッジホール	第4回 地域交流と文化の祭典 午前は体験教室、午後は地域の子どもたちの演技発表	743-8101 グループ わ
5月5日(月) 10時～15時 しあわせの村 芝生広場	わいわいストリート 動物風船、木工工作、昔遊び、ケナフを楽しもう	743-8193 こうべ市民福祉振興協会
7月26日(土) 15時～30分～20時30分 しあわせの村 芝生広場	しあわせの村まつり 食べて遊んで、夜のステージを楽しもう	743-8193 こうべ市民福祉振興協会

●訂正 64号11面イベント予定表で、環境未来館の正しい電話番号は995-3196でした。お詫びして訂正します。

体験楽しむ文化の祭典に 地域とKSC 20グループ交流

シルバー世代と地域の子どもたちが交流を楽しむ第4回、『地域交流と文化の祭典』（文化部主催）が、3月30日（日）（10:00～15:30）、シルバーカレッジで開催されます。第1部は、カレッジホールで6サークル（KSC手話ソング同好会、KSC男声合唱団、KSCマジック同好会、コーラス・タルミ、SCハワ



昨年度の祭典で歌う子供たち

イアンズ、混声合唱団コーロKSC、) 及び、子供4団体（北神戸太鼓団DON努鼓、星和台キッズダンス、児童館銭太鼓クラブ&楽游クラブ銀雅、DANCE SCHOOL）が舞台出演を、お昼休憩をはさんでロビーで、6グループ（あかりの会、むかしあそび研究会、うらしまたろう、おはなし糸車、ボランティアグループ わらべ、大正琴プリムラ）、ホールで4グループ（KSCハワイアンフラ、楽游クラブ銀雅、詩吟同好会、新舞踊クラブ、）による体験教室が開かれます。詳細は検討中で、後日配布のプログラムでご確

認下さい。地域の友人、知人を誘って、ぜひお越しください。

今回は、子どもたちに体験してもらうことを目的にプログラムを構成。各部会・区会にお願いして、チラシを配布してもらう他、振興協会の広報誌にも案内を掲載する予定です。問い合わせは、文化部会・小林精一（078-741-6007）まで。

グループ〈わ〉会員の皆さまへ

総会は、**5月15日（木）**に決まりました。例年通りカレッジホールで開催します。詳しい総会案内は4月中旬にお届けします。

26年度 カレッジ入学案内

資格：市内在住の57歳以上の方（学歴・経歴不問）
学習期間：平成26年4月から3年間（土・日・祝休み）
受講料：健福コース、国際コース、生環コースは年額50,000円。芸術コース（美工、音文、園芸、食文）は56,000円。
入学案内（願書）の配布：平成26年1月8日（水）よりカレッジ、区役所、支所、出張所、連絡所、区民センターなど市の施設、しあわせの村で配布（無料）
受付期間：平成26年2月6日（木）～2月14日（金）
出願方法：出願期間中の平日、カレッジ事務局へ持参（2/11を除く10:00～16:00）又は14日必着で郵送。
学校説明会：2月6日、7日、10日、12日、13日、14日の午前10時30分～、午後1時～の2回カレッジにおいて、開催する。



紅葉のシュラインロードを歩く秋のハイク参加者 (写真:菅田志志)



花山小の伝統文化教室。着物姿ではしゃぐ子供たち (写真:徳原尚世)



銭太鼓100人打ち。11月16日、村の研修館で開かれ、楽游クラブ銀雅(重松豊彦代表国9)ら6団体が迫力満点の演技を見せた。(写真・三木善隆)

トピックス



一の谷プラザ前の応援風景

写真④北浦俊明・⑤天野征一郎



70歳、神戸マラソン完走
26km地点の山下さん。関連記事3頁に

神戸文化ホール 開館40周年記念事業

小曽根真&神戸市室内合奏団 特別公演

小曽根真(ピアノ)/神戸市室内合奏団/塩谷哲(ピアノ)/井上道義(指揮)

【日時】3月1日(土) 13:30開場 14:00開演

【会場】神戸文化ホール中ホール

【料金】7,000円【全席指定・税込】

【予定曲目】
モーツァルト: 2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調 K.365
シュニートケ: モーツァルト・ア・ラ・ハイドン
キラール: オラワ ほか

割引優待
この広告を、神戸文化ホール1階プレイガイド窓口へご持参頂きますと、本公演チケットを1割引(おひとり4枚迄)でご購入いただけます。ただし、その他の優待証とは併用できません。

神戸文化ホール
市営地下鉄「太倉山駅」下車すぐ、京「神戸駅」北へ10分、私鉄「高道神戸駅」北へ8分

問合せ
チケット
発売所

神戸文化ホールプレイガイド
078-351-3349
受付時間
AM10:00 ~
PM18:00

他 チケットぴあ、ローソンチケット
CNプレイガイド などでも発売中!
主催: 公益財団法人神戸市民文化振興財団 神戸文化ホール